

環境調査結果のお知らせ

令和8年8月14日10時から浦ノ内湾の環境調査を実施しました。

概況

検鏡の結果、魚類に対して有害なヘテロシグマ・アカシオが最高で18,100 cells/mL、シャットネラ属が最高で1 cell/mL、二枚貝に対して有害なヘテロカプサ・サーキュラリスカーマが最高で560 cells/mL確認されました。光松と大鹿におけるヘテロシグマ・アカシオの密度は注意基準値（5,000 cells/mL）を上回っており、現在、湾内で発生している赤潮（着色）は本種が原因と考えられます。

海や養殖魚、貝類の状態に不安や変化を感じた時は、よく洗ったペットボトルに海水を汲むなどして、水産試験場か中央漁業指導所まで連絡してください。

調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン			
	深度 (m)	水温 (℃)	塩分	溶存酸素 (mg/L)	ヘテロシグマ・ アカシオ	シャットネラ 属	ヘテロカプサ・ サーキュラリスカーマ	珪藻
A 光松 (3.3m) 【10:06】	0	30.0	31.8	8.3	1,000	0	30	60
	1	30.0	31.9	7.9	90	1	0	50
	2	30.0	32.0	7.5	18,100	1	40	220
	5	29.7	32.3	5.2	760	0	20	320
	10	29.3	32.5	4.3	50	0	0	150
	底層 16.5	29.1	32.7	4.5	80	0	0	280
B 大鹿 (2.7m) 【10:16】	0	30.1	31.6	10.1	40	0	20	140
	1	30.1	31.7	9.8	4,300	0	100	1,050
	2	30.0	32.0	7.8	5,500	0	560	240
	5	29.6	32.3	4.7	1,100	0	0	360
	10	29.4	32.5	4.7	30	0	0	100
	底層 16	29.1	32.7	4.6	20	0	0	75
C 水試小割前 (3m) 【10:28】	0	29.7	31.9	8.9	70	0	0	100
	1	29.8	31.9	8.9	4,300	0	0	160
	2	29.8	32.0	8.7	780	1	10	150
	5	29.2	32.5	7.1	80	0	0	200
	底層 8.5	28.9	32.6	6.2	100	0	0	100

参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準（※1）	警戒基準（※2）	主な赤潮発生時期 ※3
				浦ノ内湾
ヘテロシグマ・アカシオ	魚類等のへい死	5,000 cells/mL	50,000 cells/mL	3～12月
シャットネラ属	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	6～8月
ヘテロカプサ・サーキュラリスカーマ	二枚貝のへい死	—	500 cells/mL	8～11月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死 並びに 二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。

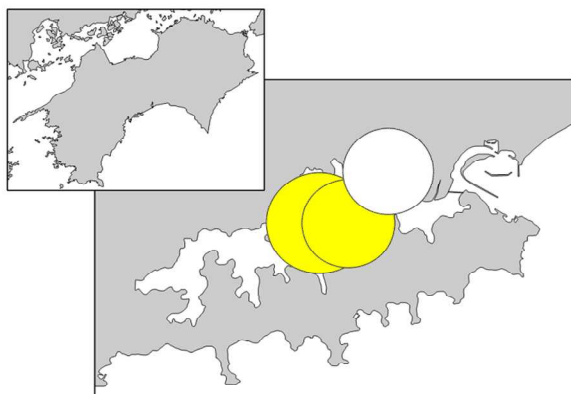


A: 光松

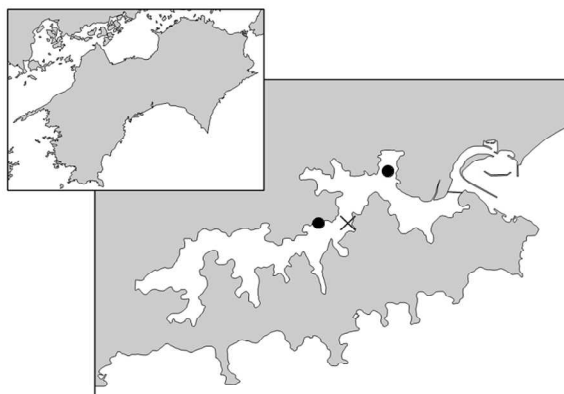
B: 大鹿

C: 水試小割前

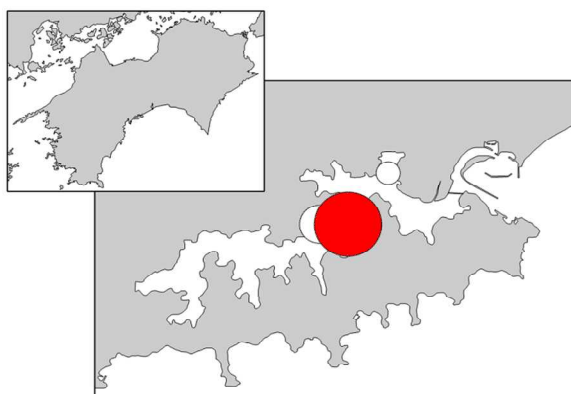
ヘテロシグマ・アカシオ
最大細胞密度



シャットネラ属
最大細胞密度



ヘテロカプサ・サーキュリスカーマ
最大細胞密度



珪藻
最大細胞密度



凡例

プランクトンの細胞密度を示す円の大きさ
円のサイズが大きいほど、プランクトンの数が多いので注意してください。



注意・警戒を示す円の色

黄・赤色の円が確認された場合は、魚介類に悪影響が生じる可能性がありますので、注意してください。
基準値は、「参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準」を参照ください。

注意基準の値以上



警戒基準の値以上

